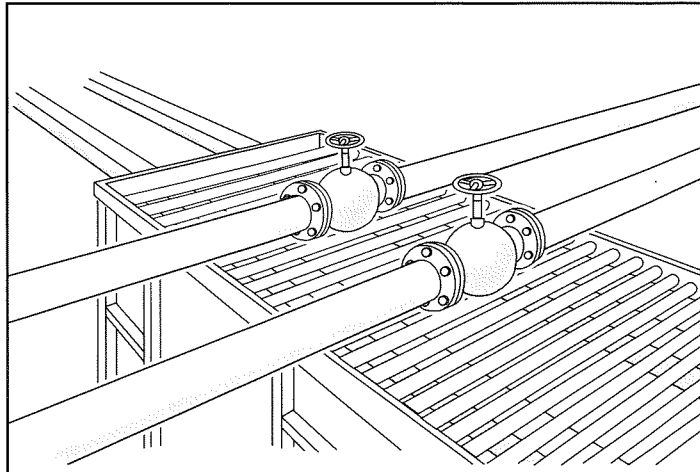


リスクアセスメント演習

リスクを評価して対策を考えよう

どんな危険性又は有害性がありますか？



《状況》高さ4mのラックのバルブから液漏れや運転事故等の際、作業者がラックに上がって修理やバルブの操作をすることがある。

- リスクアセスメントは、職場に存在する「危険性または有害性」(リスク)を把握して、その「程度」(リスクレベル)を明らかにし、この程度に応じて、リスクを除去・低減するために「必要な事項」(対策等)を決定するための手段です。
- リスク低減措置の実施 (安衛法第28条2に基づき指針)
法令に定められた事項がある場合は必ず実施するとともに、次の優先順位で低減措置等の対策を実施します。
- ① 危険な作業の廃止・変更。有害性の低い材料等への代替
 - ② 工学的対策 (インターロック、局所排気装置の設置等)
 - ③ 管理的対策 (マニュアルの整備、教育・訓練等)
 - ④ 個人用保護具の使用

《リスク評価表の例》リスクの評価の方法は各種ありますが、下記の《例》を参考に実施して下さい。

No.	危険性又は有害性の特定	① 重大性	② 可能性	③ ポイント	④ リスクレベル	改善対策	対策後のリスク評価(予測)			
							① 重大性	② 可能性	③ ポイント	④ 対策後のリスクレベル
1	ラック上の作業や緊急時の操作の際、バランスを失って墜落する。	6	4	10	IV	①バルブの操作や修理等が地上で出来るよう移設・改善する。	1	1	2	I
						②パイプラックに墜落防止の手すりを設置する。	3	2	5	II
						③ラックの上では安全帯(墜落制止用器具)を使用するよう徹底する。	6	2	8	III

《リスク評価基準の例》

①災害の重大性

重大性	点数
致命傷	10
重傷	6
軽傷	3
微傷	1

②災害の可能性

可能性	点数
確実である	6
可能性が高い	4
可能性がある	2
ほとんどない	1

③リスクポイント	④リスクレベル	判定と改善対策等
10～16	IV	重大な問題があり、直ちに対策が必要
7～9	III	大きな問題があり、対策が必要
4～6	II	問題があり、見直し改善が必要
2～3	I	許容可能、残留リスクの措置を行う

合計評価値 = ①重大性 + ②可能性